

## 入選

### 一步踏み出す勇気

山形県 高島小学校 6年 黒田 さくら

私には、後悔していることがある。今年の夏休み、私は家族で仙台市の科学館に行った。そこで私がしゃぼん玉のコーナーで遊んでいると、近くのコーナーで、やり方がわからずに困っている女の子とそのおばあちゃんを見かけた。

私は、しゃぼん玉のコーナーに来る前に、そのコーナーで遊んでいたの、やり方を知っていた。私は、二人のところに行って声をかけ、やり方を教えてあげたいと思ったのだが、知らない人に話しかける勇気がなくて、声をかけられないままだった。

すると、二人はあきらめて別のコーナーに行ってしまった。私が教えてあげれば、二人は笑顔で楽しく過ごせたはずなのに、私が教えてあげなかったことで、二人はがっかりした顔で行ってしまった。その二人の残念そうな顔が今も忘れられず、思い出すたびに心が痛む。

私には、一步踏み出す勇気が足りないと思った。その勇気を身につけて、同じような後悔をくり返したくないと強く思った。そこで、勇気を身につけるためにはどうしたらいいか考えた結果、まずは学校のあいさつ運動をがんばることから始めることにした。

私は、学校では計画委員として、毎朝8時から10分間、あいさつ運動に取り組んでいる。学校のみんなが、明るいあいさつで一日をスタートできるようにする目的で行っているあいさつ運動だが、ねむかったり、つかれていたりして、しっかりとあいさつ運動に取り組めないこともあった。でも、仙台に行ってから、あいさつ運動に取り組むときの気持ちが少し変わった。

知っている友だちにはもちろん、知らない下級生にも今まで以上にしっかりとあいさつをすることが、あのときの自分になかった勇気を身につけることにつながると思ったからだ。このことを意識してあいさつ運動に取り組んでいるが、はじめは少し緊張してしまって、声が小さくなってしまったり、相手のことをよく見ないであいさつしたりしてしまっていた。でも、少しずつなれてくると、声も前より大きくなり、落ち着いてあいさつができるようになってきた。

すると、相手からのあいさつも、前より明るくなってきたように思う。相手が笑顔であいさつを返してくれたときは、心が通じ合ったと思い、うれしくなった。

知らない人に話しかけたり、出会ったばかりの人と話をしたりするとき、まだドキドキしてしまうが、それでも、あいさつ運動を通して、前より一步踏み出す勇気をもてるようになったと思う。少しの意識を変えて、自分からあいさつをしたことで、自分にもまわりにもいい影響が生まれた。

親切は、勇気だと思う。この経験をいかして、私はこれからも自分の勇気を大きく、強くしていけるように、あいさつ運動をがんばっていきたい。そして、困った人を見かけたときには、今度こそ勇気を出して、自分から声をかけ、相手の役に立てるようにしたい。